

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規定の「お一人お一人の能力や人生観などを尊重し、生き生きとした生活、ゆったりとした時間を過ごす～」を実践できるよう、日々の申し送りやミーティングで取り組みの見直しを繰り返している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで検討課題が出る度に「家」なら「自分」ならどうするか、などを念頭に話し合いをもっている。「認知症だからで～」ではない「普通に暮らし」を基準にしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族が来られる度に、あるいは毎月の「ゆうしんぶん」で日々の暮らしぶりをお知らせすることで「あたりまえの普通の暮らし」を大切にしていることを理解してもらっている。地域の人々には運営推進会議を通してや、地域の行事への参加やバザーなどへのご協力などを通してご理解いただいている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会に入会しているのはもちろん、地域の行事に積極的に参加している。特に意識的に行ってきたわけではないが、普通にご挨拶やおすそ分けなどのご近所付き合いをいただいている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に所属し、役員をお引き受けしている。町内会のバスレクにも誘われてご利用者と職員が一緒に参加した。地域のサロンにもご利用者と参加させてもらっている。合同で餅つきも開催できた。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>電話やあるいは見学を兼ねたご相談にも特に条件をつけずに応じて、場合によっては地域包括支援センターにつないだりしている</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>ミーティング等で職員全体が改善策を考え、実践できるところから取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>報告することで、客観的に取り組みについて見直しが出来、不十分な点が明確にされてきている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>佐伯区高齢者医療・福祉部会やケア会議のメンバーとして認知症の啓蒙活動に関わることで、ホームだけにとどまらず地域の中で出来ることを行っている。認知症アドバイザーのいる施設として連携している。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>実際に社協の「かけはし」という制度を利用している利用者がおられることで、広報誌でも「成年後見制度」の特集を組み、地域の方の相談に乗った。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待の記事を連絡ノートに張って、職員の注意を喚起するなどしている。言葉による虐待にも細心の注意を払うようその都度問題提起している。</p>		

グループホーム悠

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前面接には必ずホームに来てもらい、具体的な不安やこだわりなどをご本人を交えて話してもらうように十分時間をとっている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>普段から管理者が利用者とはふれあい、話しやすい雰囲気がある。外部の方が自由な時間に来られるようにしてあり、居室でゆっくりお話してもらえ。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「ゆうしんぶん」を発行し、お知らせしているが、ご利用者毎のコーナーを作って、特にその方だけについて担当者が書くことによって信頼関係を強めている。</p>		<p>広島市在住のご家族は頻繁に来訪していただき、コミュニケーションがとれているが、遠方のご家族には、月1回の「ゆうしんぶん」以外にもっときめ細かい対応が必要と感じている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>法人代表者と管理者が責任者と窓口として、小さな疑問や気づきなども気軽に言ってもらえよう、こちらから声をかけ、すぐ対応できるようにしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者や管理者と他の職員が立場にこだわることなく、自由に意見を述べ合えるような雰囲気があるので、朝の申し送りや、日常、月1回のミーティングなどで話し合い、実行に移せるものは即実行していている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>運営者と管理者が急な超勤務などには対応するようにしているが、他の職員も積極的に協力してくれている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>家庭の事情等で、辞職せざるを得ない職員が出た場合なども、本人の都合のつく時だけでも出勤してもらって、できるだけなじみの関係が継続していけるように配慮し、協力してもらっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティングでは、研修を受けた職員が他の職員に研修内容の報告をするとともにビデオ等を使って研修内容の共有をはかるようにしている。研修はモチベーションを高めるために命令されてではなく、希望する職員にシリーズを通して受講してもらうなどしている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広島市・福山市の小規模な事業所の有志で構成される「ぼちぼちいこうねっ」に所属し、独自の勉強会や研修などの交流をしている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	行事や外出プログラムなどを運営者が一方的に決めず、職員の得意分野が発揮でき、企画を任せることで、利用者と自由な雰囲気と一緒に楽しめる機会を持つようにしている。ミーティングの議案なども持ち回りで職員に任せている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	希望する研修に積極的に参加してもらうことで、本人のモチベーションが上がると共に、他の職員へのよい刺激になっている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にはできるだけご本人にもホームに来てもらい、ご家族だけの意向ではなく、ご本人の気持ちや不安な点なども聞き取る努力をするよう努めている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	「とりあえずお任せします」ということではなく、これから一緒に本人を支えていこうとういことをご理解いただくように努めている。そのために十分ご家族の苦勞してこられた話等を傾聴するようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態やご家族との関係性なども配慮し今はまだ入居のタイミングではないと判断した場合は、具体的な他のサービスやケアのポイントなどのアドバイスをさせていただくこともある。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人の気持ちのゆれに添うように、電話でご家族とお話ししてもらったり、出向いてきてもらったり、あるいは家に職員と一緒に戻って日中過ごしてもらったりする場合もあり、ご家族のサポートがとても重要だと考えている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の家事の中でいろいろな事を教えてもらいながら生活している。たとえ何もできなくなっておられるように見える方からも、その方の存在から多くのものを学ばせてもらえる。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームはご本人と職員が擬似家族のようになっているが、ご家族もふくめての大家族のような雰囲気になるようつとめている。一緒にりんご狩りなどにでかけることで、ご家族同士が交流を持たれ、悩みや不安も話すことができよいストレス解消になっているようだ		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族にとって話したくないことを話してもらおうとするのではなく、何度もお会いするうちに自然に今までの本人とのわだかまりのようなものは語っていただけるようになる。それを聞いてさしあげ、ご本人のホームでの様子を見てもらうことで、すこしずつ良い方向に向かっていけるように思う。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	担当の職員がご家族などと一緒に話し合い、ご本人の故郷などに小旅行をしたりしている。賀状のやり取りなども職員が部分的に宛名書きを手助けしたり、遠く離れたご親戚などから贈り物があれば、ご本人に電話を取り次いでお話ししてもらっている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居後早い時点で相性の良い方を見つけそれとなく関係性がもてるように配慮している。全員が仲良しになることではなく、それぞれの居心地の良い関係の輪がいくつも重なるのがよいと思っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	努力しているのではないが、ご本人が亡くなられた後でもホームを訪ねてきてくださったり、手紙などのやり取りが続いていることに感謝している		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際には必ずお伺いしているが、ご家族がホームに来られた際にはお話の端々からも意向を汲み取る努力をしている。日々の生活の一つ一つのシーンでも本人がどうしたいのかを最優先に考えるようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャー等から暮らしぶりやこだわりなどをうかがったり、ご家族に生活歴を書いていただくなどして把握するが、先入観を持たずにご本人と関わることで、その方の価値観などを図り知ることとても重要だと思っている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	上記と同様いろいろな方のお話をうかがい、不明な点は以前のかかりつけ医にも問合せしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族が遠くにおられたり、多忙で全員で話し合う機会は持ちにくいですが計画作成担当者が作成した介護計画を見ていただき、内容について検討いただいている		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人に変化がなくても、3か月ごとに見直しをしている。毎朝のミーティングや毎月のミーティングあるいは、職員の意見やご家族の感想などを反映して、随時細かい修正や追加などは行い、連絡ノートで共有している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌で個人の1日の生活の状況を記録し、変化や注意すべき点などがあれば印をつけて目立つようにして、日勤者から夜勤者へ情報が提供されるようになっている。介護計画の見直しには、この生活日誌と、連絡ノートが活かされている		
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	終末期を迎えられた利用者にご家族がほぼ一か月付き添われたが、ご利用者の一人のように職員もご利用者も自然に受け入れ生活できた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近所の方が開所当初からボランティアでホームに遊びに来てくださり顔なじみになっている。無断外出の可能性のある方はSOSネットワークに登録するとともに、地域の交番に協力をお願いしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	リハビリが必要なご利用者に訪問リハビリを要請したが、制度上不可能だった。しかし、話し合いを重ね職員の勉強会の形でリハビリの機会を持つことが出来その後もアドバイスももらった。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議や地域ケア会議のメンバーとして、地域を含めた視野での意見交換が出来ている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を引き続き受診できる体制をとっているが、現在のところほぼ全員がホームのかかりつけ医を希望されている。隔週で往診してもらい、緊急時には職員がついて受診し、ご家族に連絡報告している。		

グループホーム悠

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科でも特に老人の臨床経験の多い医師にご利用者の診断・治療をお願いしているとともに、ちいさな疑問や不安に対してもていねいに回答いただいている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医が隔週で往診してくれる際に同行する看護師がかかりつけ医が不在等や休日の場合にも、かならず電話で対応してくれるので大変心強い。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の対応はほとんどホームが行い、その後はご家族と早期退院の重要性を含めてよく話し合い、退院へ向けての準備、病院関係者との折衝もおこなっている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「もし希望されるなら最期まで一緒にいたい」という意向はすべてのご家族には伝えている。状況が変わる都度ご家族などの気持ちのゆれを受け止めながら、かかりつけ医もまじえて話し合いながら進めてきた。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	何度かホームでご利用者を見送らせていただいたことで、「今まで一緒にいたように最期まで一緒にいるだけでいい」とう気持ちが強くなっている。職員も経験することで、「不安であること」「何もできない」ことも含めて寄り添うことだと理解できてきたようだ。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	納得のいくよう話し合い、安心した退去になるよう心がけ支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>いつもご利用者の中にいるので、朝のミーティングや日々の暮らしの中で職員が個人名を言って報告や連絡をし合わないようにしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>できるだけ、「～するよ」や「～しよう」という声かけではなく、「～しますか？」や「どうしようか？」とご本人に問いかけ、決めてもらえるようにしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ホームのプログラムは決めず、天候やご利用者の気分でその日の予定を決めている</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>近くの美容院に出かけて希望にそったカットやパーマ等をしてもらうようにしている</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>メニューや調理方法などもその都度ご利用者と一緒に相談しながらするようにしている。片付けも自分の仕事とと思ってくださる方には積極的にお願いしている</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>晩酌をされる方には好みの酒を準備したり、一緒に買い物に行ったときには、おやつ等を選んでもらっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握するように努め、できるだけトイレで排泄してもらったり、日中と夜間で使用するパット類なども変えて不快感のないように対応している。		排泄パターンが一定せず、パット等の後始末に終始している方がおられ、こまめに交換するにとどまっている。後始末でない排泄ケアを検討中。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一応決めているが、。本人の希望や必要性に応じて柔軟に対応している。		入浴を嫌がられる方には、入浴日に限らずタイミングを見ては誘いかけをしている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は決めず、その方なりの生活リズムに合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれが、自分のできることをしてくださることに感謝し、力を生かせる場面の提供や、皆でいることを楽しめる時間など、メリハリのある生活作りをしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	どんな場合もホームで立て替えるのではなく、自己管理できる方にはお金を使うチャンスや所持金の確認ができる場面をつくるようにしている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物などもいつも全員ではなく、一人や二人など希望に添って個別に対応することを大切にしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「夢の実現プラン」と題して、ご本人、ご家族と担当職員が個別に日帰りの旅行を楽しむ機会を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	こちらから電話をして話をしてもらったり、宛名書きをお手伝いしてはがきを出してもらったりしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限はないので、いつ来られても気兼ねなくすごしていただいていると思う。居室でゆっくりされる方も、皆さんと一緒にと言われる方もおられ、それぞれの希望にそっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束だけでなく、言葉による拘束もしないように、一つ一つの声かけにも気を配るようにしている		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	無断外出のリスクはあるが、日中鍵をかけることはない。出かけることを阻止しないようにしている。		
67	ぐるみの協力をお願いした。 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全確保のために全員を1か所に集めるようなことはせず、それぞれが居心地のよい場所にいてもらうようにしながらも、目を配るようにしている。必要な箇所にはセンサーを設置して、ある程度所在を確認できるようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤、消毒液、刃物などは手の届きにくい所に置いている。包丁、針箱やはさみなどは必要に応じて職員が一緒に使用し、収納している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ご利用者の状態によって予測できる事故防止については、ケアプランで把握されている。それ以外に「ヒヤリ・ハット」の記録によって、経験を生かして事故につながらないようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	他のグループホームにも呼びかけて、合同で消防署による「救命講習」を定期的に受けられるようにし、全員がそれに参加している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	H20年初めて夜間想定避難訓練を実施した。ホームとしての改善点、今後の課題などを運営推進会議で報告し、地域ぐるみの協力をお願いした。		ホームが援助されるばかりでなく、貢献できることを具体的に模索中。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居後早い段階で、起こりうるリスクに関してはお話しするし、その後も状況変化に応じて相談しているが、生活を犠牲にしてまでの安全を期待される家族は今の所おられず、バランスを大切にしたい対応をさせてもらっている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	夜勤 日勤 日勤 夜勤と記録を通しての共有はもちろん、その都度ちょっとした変化やその原因と対応について、ホーム長を中心に職員や必要と思われる場合は速やかに医師にも連絡をとって対応している		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の個人ファイルには薬の説明書がいつでも見られるようにとじてあり、確認ができる。服薬の変更等に関しては連絡ノートで全職員が確認、情報を共有できるようにしている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜(温野菜)や乾物など繊維質の多い食事内容になるよう工夫するとともに、水分をしっかり摂ってもらうように心がけている。		「散歩」は積極的にするようにしているが、便秘体操やマッサージなどもやっていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	各人の能力に応じた口腔ケアの支援をするとともに、訪問歯科による指導や治療を定期的に受けて予防に力を入れている。特に残滓の多い方については、毎食後口腔ケアを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や2度のおやつで確実に栄養や水分を摂ってもらうようにしているが、状態に応じて夜間、早朝などに水分を摂ってもらうよう支援をしたり、各人の嗜好にあわせて摂取しやすい物にする工夫もしている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	基本の手洗いの徹底、寝具類や衣類の日光消毒を習慣にしている。インフルエンザは職員も含めて予防接種をしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器乾燥機を使用して食器、包丁などの高温殺菌をし、布巾、まな板などは塩素系漂白剤で消毒するよう取り決め衛生管理に努めている。食材はあまりまとめ買いせず、新鮮なものをこまめに買いに行くようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家改造型でもあり、住宅街の中の一軒として、花や木々に囲まれた空間になっていて、誰でも訪れやすくなっている		庭のビニールハウスをサンルームとしてご利用者が寛げる場所になるよう整備中
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏はリビングの窓辺につるをはわせて、日よけにするとともに花や収穫が楽しめるようにしたり、室内にも季節の花を絶やさないようにしている。テレビやCDの音が不必要に大きくなりたくないよう気をつけている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になったり、入居者同士や職員とくつろげるように、リビングや玄関先に椅子を置き自由な時間を楽しみ過ごせるようにしている		自分の居場所にこだわりのある方とそうでない方の間でちいさな衝突が起きる場合もある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具やご家族の写真などを置いて、生活感を感じる雰囲気になっている。仏壇に毎日お参りされる方もいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床されてからは、できるだけ布団を干したり、窓や押入れなども開けて換気をした後、温度調整をしている。就寝前には寝られる時間をみはからって室温を調整している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて要所要所に手すりを設けたり、階段昇降機を設置している。浴室では二種類のシャワーチェアを使い分けている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員はでしゃばらず、本当に困っているのか、手助けが必要なのかなどの状況判断を的確にし、最小限の援助をするよう心がけている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭や家の周りにも自由に出入りしてもらえるようにしているので、花の水遣りや野菜の収穫、洗濯物干し、掃除、おやつや、バーベキューなど、色々に活用している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム悠

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご家族と協力してご利用者の「夢」を実現していこうと取り組み、少しずつ実現しているが、これからも地域の方の力も借りて積極的に取り組んでいきたい。